

# 第1学年 国語科学習指導案

日 時：令和5年10月31日(火)

学 級：1年1組 児童19名

授業者：尾久第六小学校1年担任

自分の考えをもち、主体的・対話的に学びを深める児童の育成  
～国語科「読むこと」を通して～

## 1. 単元名 おもいうかべながら よもう

教材名 「くじらぐも」 なかがわ りえこ作 (光村図書 1年下 ともだち)

## 2. 単元の目標

知識及び技能	・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。((1)ク) ・かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。((1)ウ)
思考力・判断力・表現力等	・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 (C(1)エ)
学びに向かう力・人間性等	・楽しんで読書をし、友達に自分の思いや考えを伝えようとする。

## 3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 ((1)ク) ② かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 ((1)ウ)	①場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (C(1)エ)	①これまでの学習をいかして、積極的に想像力を広げて物語を読み、想像したことを友達に伝えようとしている。

## 4. 児童の実態

本学級の児童は、本の読み聞かせや読書の好きな子どもたちが多い。2学期になり、ひらがなが定着してきて、言葉のまとまりを考えて文を読めるようになってきたり、自分の思いや考えを書けるようになってきたりしてきた。2割程度の児童がまだひらがなを読んだり、書いたりすることが苦手である。また、数名の児童が物語の世界に入りきれず「うさぎが話すわけがない。」と発言する児童もいる。

1学期に学習した「はなのみち」では、誰が何をした、誰が何を言ったなど、主語と述語について学習した。「おきななかぶ」では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、動作化して音読を楽しむ学習を行っ

た。本単元では、物語の設定や場面の様子をpushしながら、自分だったらこんなことを言う、くじらぐもに乗って、こんな所へ行きたい、などと登場人物の行動を具体的に想像したり、お話の世界に浸って、考えたことを友達に伝え合ったりする活動に取り組ませたい。

## 5. 単元について

本教材の登場人物は小学生であり、体育の授業中ということで児童にとっては想像しやすい。また雲にのって空を散歩する内容は1年生にとって楽しみながら話の内容に入っていけるものであると考える。

物語の展開は体育の時間という現実世界→空を旅するという非現実世界→もとの世界に戻る現実世界という展開である。ファンタジーの理解があいまいな1年生にとって自分と対峙しながら想像力を広げられる作品である。

また、行為の主体や時制を説明する書き方が省略されている箇所が多く見られる。これによって登場人物の会話のテンポのよさやリズムが子供たちにとって音読を楽しめる要素になっていると考える。

これらのことから、本単元目標にあるように想像しながら読む楽しさを味わうことで、自分の考えをもちやすいと考えた。

## 6. 研究主題に迫るための手立て

### (1) 単元構成の工夫(お話の世界に入り込むために)

児童が楽しく学習に取り組めるように、毎時間動作化をしたり、くじらぐもの気持ちや子どもたちの気持ちをたくさん想像させたりする活動を通して、自分自身が物語の中に入り込んで想像を膨らませていけるように単元構成を考えた。また、物語文に慣れてない子もいるので、なかがわりえこさんの作品を学級に置いたり、読み聞かせをしたりして児童が作品に親しむ機会を意図的につくった。

### (2) 学習過程の工夫(自分の考えをもてるようにするために)

自分の考えを書くことが困難な児童も多くいるため、考えを書く前に、ペアや仲の良い友達と自由に話し合う時間を設けることで、自分が話したことや周りの友達から聞こえてきた言葉を使って自分の考えを書くことが出来るようにした。また、自分の考えを書けた子には、さらに考えを書けるように吹き出しカードを用意した。考えを書けない児童には、教師から補助カードを出して、差がでやすい学習にもそれぞれの力に合わせて考えを深められるようにした。毎時間の流れを同じような流れにすることで、学習に見通しをもって取り組めるように考えた。

また、実際に校庭に出てお話と同じように声を出して動いてみたり、教室に大きなくじらぐもを置いたりすることで、イメージが湧きやすいようにした。

### (3) 文章表現や描写に着目できるようにするための工夫

主語や助詞についてまだ理解が曖昧なので、物語の読み取りを確実に出来るようにするために、細かな文章表現(「～も」「～が」)に毎時間着目して言葉の理解が深まるようにした。行動を表す文では、主語に注目させながら内容を正しく読み取らせるようにした。

挿絵にも着目して、挿絵と同じ活動を実際に行ってみることで、理解が深まるようにした。

## 7. 単元(題材)の指導計画と評価計画

時	◆目標 ○学習内容	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	◎評価規準 <評価方法>
1	◆「くじらぐも」を読み、感想を書く。				
	○題名と挿絵を手がかりにして、どんなお話なのかを予想する。 ○「くじらぐも」を音読し、好きな場面やおもしろかったところを感想に書く。				
2	◆大体のあらすじを捉えて、学習計画を立てることができる。				
	○挿絵を手がかりに、話の大体を捉える。 ○初発の感想をもとに、児童の言葉から場面分けをして、物語を読み深めていく学習計画を立てる。 ○学習のゴールとして、音読劇にする見通しをもつ。				
3	◆くじらぐもと出会う場面の子どもたちの会話を想像しながら読む。				
	○子どもたちとくじらに分かれて行動を動作化して音読し、場面の様子を想像する。 ○校庭での子どもたちの会話を想像し、挿絵の子どもたちになったつもりで吹き出しに書き、友達に伝える。	②			◎かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。<発言・記述>
4	◆くじらぐもに跳び乗ろうとする子どもたちの様子を、想像を広げながら読む。				
	○くじらぐもに乗るまでの子どもたちとくじらぐもの様子を、動作化して想像し、声の大きさや速さを工夫して音読する。		①		◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。<発言・記述>
5	◆くじらぐもに乗った子どもたちの様子を、想像を広げながら読む。				
	○くじらぐものどこに乗りたいかを考え、自分の写真を黒板のくじらぐもに貼る。 ○くじらぐもに乗った気持ちを想像して吹き出しに書き、友達に伝える。		①		◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。<発言・記述>
6 本 時	◆くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの様子を、想像を広げながら読む。				
	○子どもたちがくじらぐもに乗ってどんなことを話したか、何が見えるかを想像し、挿絵の子どもたちになったつもりで吹き出しに書き、伝える。		①		◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。<発言・記述>
7	◆くじらぐもに手を振る子どもたちの様子を、想像を広げながら読む。				
	○子どもたちがくじらぐもに手を振りながら何と言ったかを想像し、挿絵の子どもたちになったつもりで吹き出しに書き、友達に伝える。		①		◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。<発言・記述> ◎これまでの学習をいかして、積極的に想像力を広げて物語を読み、想像したことを友達に伝えようとしている。<発言・記述>

8	◆「くじらぐも」を読んで想像したことを音読で表現し、交流する。		
	○好きな場面の様子を想像し、その様子が伝わるように、音読の仕方を工夫し、発表する。 ○友達の音読のよかったところを発表する。		① ◎物語を読んで想像したことを音読で表現している。 <発言・行動観察>

## 9. 本時 (6/8)

### (1) ねらい

・くじらぐもに乗って、空を旅する子どもたちの様子を、想像を広げながら読むことができる。

### (2) 展開

時間	○主な学習活動	※指導上の留意点 ◎評価規準 <評価方法>
5	○今日の課題をつかむ。	※前場面のくじらぐもに乗った子どもたちの気持ちについて振り返ってから、学習課題を確認する。
くじらぐもにのってすすんでいったとき、子どもたちがはなしたことやきもちをかながえよう。		
10	○空の中を進むくじらぐもとみんなの様子を想像する。 ・全文を音読する。 ・音読をしながら動作化する。 ・文章表現に着目して、登場人物の様子を捉える。 ・挿絵から雲の上からどんなものが見えるのかイメージを膨らませる。	※教室の床にくじらぐもを置き、本の中の子供になることでイメージを膨らませる。 ※登場人物のしたことを確認する。 ※イメージが思い浮かばない児童には航空写真を提示し、高い場所から見える景色を想像できるようにする。
15	○雲の上でみんなが話したことを想像し、伝え合う。 ・雲の上で、見たもの、子どもたちが思ったことや話したことを想像して、吹き出しに書く。	※ペア→個人→交流→発表の流れにすることで自分の考えをもてるようにする。 ※考えをもてない児童には補助カードを使用する。 ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。<発言・記述>
10	○考えたことを発表する。 ・吹き出しに書いたことを、くじらぐもの上の子どもになったつもりで発表する。	※発表者以外の児童は、教科書の本文を音読し、発表者がくじらぐもの上にいる子どもになったつもりで発表できるようにする。
5	○振り返りをする。 ・本時の学習を振り返り、もう一度音読をする。 ・振り返りカードを書く。 ・次時の学習内容を確認する。	※物語を読んで、想像する力が高まったことを価値付ける。 ※次時は、くじらぐもに手を振る子どもたちの様子を想像することを確かめる。